



(ハ) 九十枚なら何枚づつわけられるか。

2 右の如き問題を課することによつて、等分除の除法適用による問題解答をなさしめる。

3 此の如き事實問題解決上に必要な除法の形式算について特に正確敏速を期するため、算術書問題(6)及び(7)を練習すべきことを知らしめる。

4 問題(8)は、主として商一位の場合の形式算であつて上四段は整除される場合、下一段は剰餘ある場合である。不規則に排列してある方が、有意義であるが已むを得ない。

5 兒童に計算を命ずると共に、二三の兒童に板上演算せしめ、やがて検査の際之を利用して、除法について吟味整理するがよい。

6 問題(9)は、主として商二位、若くは三位の除法形式算の問題である。而して、前問題と同様、上四段は整除し得るもの、下一段は剰餘あるものを排列してある。

7 前題の検査後、兒童に計算を命じ、二三のものに板上演算せしむること、凡そ前問題取扱と同様でよい。

(六)算術書七六頁(10)副題(10)の取扱

法三位の場合の除法形式算の復習整理をなさしめる。

1 三位数の除法は商一位のもの、二位のもの、及びその各々の場合の剰餘あるものがここに排列されてある。

2 例によつて剰餘あるものは、僅に最後の三位しかない。三年の教材として、法三位のものは相當に困難なものであるから、ここで剰餘のあるものは少々無理とも考へられる故に、これ位で或は適當であらう。

あらう。

3 法三位のもの最も困難とするところは、やはり商發見そのことである。故に商發見については、或程度まで、機械的方法を必要とする。これは本學年程度に於ては已むを得ないことであらう。

4 商發見の一般的方法は、大體次のやうな順序に行ふがよいと思ふ。

(イ) 法が三位ならば、實も左端より三位をとつて、第一部分除として比較する。

(ロ) 従つて商は、實の9の上に立てることを先づ意識せしめる。

(ハ) 次に商發見の方便として、法の左端の數字2と、實の左端の數字6とを比較して實の6は法の何倍かを見ると、丁度三倍になつてゐることがわかる。

(ニ) 依つて、商を假に(3)として、法を三倍して見ると、丁度實と等し數になるから、ここで商は確定する。

5 右の例は誠に好都合に一度で商が發見し得たが、いつもさうばかりはゆかない。例へば次のやうなものはその例である。前と同一筆法でいくと、最初假商として、9を立てるが、これは適當でないことが直ちにわかる。その次に8、7、6と(1)づつ減らして假商を吟味すると何れも不適當で5に至つて、始めて正しい商となる。

$$\begin{array}{r} 5 \\ 182 \overline{) 910} \\ \underline{910} \\ 0 \end{array}$$

6 此の如き手段は極めて迂遠ではあるが、三年の程度に於ては、しばらく迂遠な方法をとらしめておく方が適切であらうと思ふ。

7 兒童に計算を命じたらば、なるべく多數の兒童に板上演算をなさしめて、やがて検査の際計算過程の吟味を適當に行ふ機會を作るがよい。

(七)算術書七七頁(11)問題(12)の取扱

将来加減乗除混合の計算について、算術上の規約事項を教授する準備としての式題計算を課し、次に金高度量衡の名数計算によつて、除法の大切な等分包含の區別を復習し整理することになつてゐる。

1 方法加減乗除の符號を重ねて使用する式題といつても未だ算術上の規約を守らしめて計算するといふが如き程度には至つてゐないが、兎も角問題(11)は單なる除法でもなく、又乗法でもなく除法と乗法、除法と加法、除法と減法等が混合されてゐる。

2 本問題は、左端から順序を正しく計算よればすいといふことを復習し、實際に計算せしむる程度でよい。

3 次に名数計算による、等分包含除の問題は、かかる所に集めて提出するよりも、平素生活上の事實問題に遭遇せし機會に於て、生きた問題についてこれを取扱ふことの方が遙かに教育的であり有効であるが、算術書はさうした考を表はしてゐないのが、少からずものたりない點である。

4 等分除包含除を單なる知的説明のみよつて解決しようとしたとて、それは甚だ無意味なものであるから、何處までも兒童の生活中に起り得る卑近な事實問題について理解せしめるやうにしたい。

5 従つて本問題の如きは、その練習問題として、之を取扱ふやうにしたい。計算を命じたらば板上演算も二三名之を行はしめ、これを利用してことによつて、正しくこの區別を理解せしむべく復習し整理する。

(八)算術書七七頁問題(13)問題(14)の取扱

日時の問題について計算せしむることにより、時間觀念の確立のため、これが復習整理を行ふ。

1 時間に關する單位關係について、一通りの復習を行ふ。

(イ) 日、時、分、秒、の單位關係

(ロ) 年、月、日、の單位關係

(ハ) 週、日、の單位關係

2 時間問題に於て「日、時、分、秒」は最も生活上密接な關係のあるもので、従つて算術上の問題としても、これが非常に多い。

3 年、月、週の如きは、稍々別な方面の單題で、平素社會生活上相當に關係あるものであるから、何れにも輕重をつけるわけには行かぬ。

4 時計の見方、曆本の見方、これは何れも、吾人の生活上に一日も缺くべからざるものであるから、その取扱にはかなり工夫を要する。

5 況してや時間觀念附與といふことは、かなり困難なことであるからである。

6 算術書の問題は、昔の不十進諸等數の通法命法といふのがあつたが、全くそれである。これは甚だ遺憾なことで、もつと生活に密接な問題を捕へることが肝要であらうと思ふ。算術書は算法といふものにのみ拘泥しすぎてゐるやうに思ふ。

二 應用問題九 (算術書七八頁—八一頁)

應用問題については、これまでしばしば述べたことと思ふからあまり詳細に亘つては、ここには述べないこととする要するに應用問題といふ名稱は少くとも適切ではない。而して形式算問題、名数式題問

題、應用問題といふ三段の排列法は、新主義算術の立場から見ると、甚だ價値のうすいものである。現行算術書の編纂態度は、舊式の埒外に一步をも踏み出し得ないで、遂に度量衡法の大改正といふ好固のチャンスすら姑息手段で遂にとり逃がしてしまつた様な實狀である。

さて本問題取扱の要旨としては、今まで應用問題として算術書にあらはれてゐたものと、多少異つた立場がある。それは外でもない。今までは、乗法形式算の後には乗法應用問題、除法形式算の後には除法應用問題といつたものであつた。ところが今回は、本學年の總復習教材である。復習教材としての形式算問題が、如上の加減乗除あらゆる本學年全般の教材に亘つてゐる關係上、この應用問題も亦、あらゆる算法の場合の應用問題である。

従來應用問題とはいふものの、乗法形式算の後に乗法に關する應用問題ばかりといふことは、あまり機械的でありすぎた。そんなことをしてゐるから、甚だしきに至つては所謂解題力の實力といふ様なものは之を望むことの方が無理であつた。

従來の算術書の應用問題の所でもしばしば主張したところであるが、除法なら除法のみによつて解決し得る事實問題をここに排列したとて、それは何等の兒童の思考を要せずして何れも除法適用によつて解決し得たのは、教育上如何なる價値を有つものであらうか。これには少からず考へさせられる。

故にこの機械的計算に陥らない様にする手段の一として、假令除法の形式算の後であつても、その應用問題は、加減乗除何れをも混出すべきであると主張した所以である。

然るに本應用問題には、恰も各種異つた計算の種類の事實問題が排列されてゐることとて、算術書中最後に於てはじめて、本當の實力をためし得る應用問題があるわけである。

この意味に於て、本應用問題は、豫めあまり親切すぎないやうに取扱ふことが肝要である。あまり親切に讀解せしめたり、大要を質問によつて答へしめたりすれば、折角の問題も亦、兒童は單なる計算だけすれば事足りるといふやうな事になつて、甚だ價値なきものとなり終るであらう。

(一)算術書七八頁問題(1)(2)(3)(4)(5)の取扱

加減乗除に關する問題につき讀解力、理解力計算力等を檢す。

- 1 先づ最初から全く兒童に獨立的に解答せしむる方針で、適當の時間を之にかける。
- 2 勿論文字・文章で不審の點は之を質問によつて、なるべく親切に知らしめるが、苟も問題解答に關することは最初、少しも助けしないで兒童に試みる。
- 3 大體の兒童が大要計算出來た頃檢答を行ふ。檢答の時使用する目的の必要上、兒童に板上演算せしめることもよいが、この所では各兒獨自に解答せしむる必要上、之を敢て行はない。
- 4 教師は机間巡視に於て、大體全兒童の傾向を觀察しおき檢答の場合には、著しい特徴をもつ兒童數名に解法を發表せしめて、これについて吟味する。
- 5 然る後、教師用書副題計算及び教師の準備せる補充問題取扱を行ふ。
- 6 補充問題として、左の如きものをえらぶ。

- (イ) この最初にもつてゐたお金は、どんなお金でもつことが一ばんお金の數が少なくてすむか。  
 (ロ) 二十二圓の金高をどんなお金で持つことが、一ばんお金の數が少なくてすむか。  
 又五十錢銀貨で持つと、何枚になるか。  
 (ハ) 八十錢足さない前に、十錢白銅貨が十六個あつた。

十六人が、五錢白銅貨がなくて、出したものである。併しすぐに五錢の白銅貨をおつりとしてもつていった。後に残つてゐる五錢白銅貨はいくつか、又いく錢か。

(ニ) 四十八人であつめる所を、六十人に増したら、一人は幾錢ですむか。

(ホ) 太郎が一分間に四十メートルづつ歩けば家を出て學校を通りお宮までいくに何分かかかるか。

(二)算術書七九頁問題(7)(8)(9)(10)の取扱

大體に於て、前同様であるが、ここに目測の問題がある。由來目測といふことは、吾人の生活上、かなり重要なことで、平素よりかうした訓練をすることは、甚だ大切なことである。

從來幾多の經驗を得てゐる大人には兎も角、三年兒童位に目測等は甚だ高尙にすぎものやうに考たやうな事實もある。これは大なるあやまりであつて、かうした陶冶を三年頃より經驗せしむればこそ、將來容易に目測といふやうなことになることが出来るのである。

目測といふことの前には、當然實際といふことがなければならぬ。それから歩測・目測といふやうな順序がある。但し算術書の問題の如きものは、實際から直ちに目測に入つても差支ない。

- 1 目測の問題は、適當な補充問題によつて、なるべく多く經驗せしむるがよい。
- 2 尙最初目測して記録し次に實測しては記録し、その記録を全部あらゆる場合のと比較して見ると、目測實測との差が、漸次減少して行く事實をよく認め得るものである。これは目測上達をせしむる一方法である。
- 3 應用問題及び問題の取扱については、前時間の取扱と同様でよい。
- 4 補充問題として、凡そ次のやうなものをとるがよい。

(イ) 飛行機は凡そ二四〇〇メートル位の高さまでのぼることが出来る。この飛行機の何倍か。東京や大阪のやうな大きな町の上では、一〇〇〇メートルより低く飛んではいけない規則がある。この飛行機の何倍の高さか。

(ロ) 一分間に三ミリメートルの高さづつ降る雪は、少しもとけないであると、一時間に何ミリとなるか。又何センチとなるか。

(ハ) 一箇十五錢のリンゴは二箇でいくら。三箇でいくら……といふことを次の表の中へ記入して見よ。

箇數	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
金高	15錢									

(ニ) 一箇二錢五厘のミカン十箇までの代を次の表へ記入せよ。

箇數	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
金高	2錢 5厘									

(ホ) 一圓で五リットルの豆十圓までの量を次の表へ記入せよ。

金高	1圓	2圓	3圓	4圓	5圓	6圓	7圓	8圓	9圓	10圓
リットル										

(三)算術書八〇頁問題(11)(12)(13)(14)(15)の取扱

1 取扱の方法は、全く前時間と同様でよい。補充題として記すところのものは、算法については必ずしも主題と同様なものではない。即ち形式的の補充題にのみならず、内容的に關聯せるものを澤山とるといふ趣旨から、此のやうに考へたのである。

2 左に補充問題を前述のやうな考で記することとする。

(イ) お茶は六〇〇グラムを一斤といふ。一斤一圓八十五錢の茶としたら、十五斤の代いくらか。

(ロ) 茶は一斤の半分を半斤といふ。何グラムか、又半分のまた半斤を四半斤といふ。これは何グラムか。

(ハ) 卵が一箇五錢の時、三百七十五箇買入れて、これを一箇八錢づつに賣ると、いくらもうけられるか。

(ニ) みかん一箱九十六箇入りのものが、一圓九十二錢であるとこのみかん一箇いくらか。

(ホ) 晝前五時間はたらくには、朝何時から仕事にかからなければならぬか。又晝後六時間はたらくには夕方何時まではたらかねばならぬか。但しお晝後の仕事は一時からはじめる。

(四)算術書八一頁問題(16)(17)(18)(19)の取扱

1 大體に於て取扱方法は、前時間と同様でよい。ここには補充問題を記することとする。

2 補充問題の取扱ひは、教師用書問題の終つたもののためと與へるやうにしたい。

(イ) 算術書(16)の圓を十錢白銅貨とすればいくらか、この金高をどんなお金でそろへると、お金の數が一ばん少なくてすむか。

(ロ) 甲組の生徒と、乙組の生徒とくらべると、どちらが何人多いか。

(ハ) 一本五錢の鉛筆一本から十二までのお金を次の表へかき入れよ。

本數	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
金高										

書全方へ教

-(22)-

術算の三尋

錢五十四價定

製複許不

10.10. 6

昭和十年十月五日印刷  
昭和十年十月九日發行

著者 山内俊次

發行者 岡本正一

印刷者 谷口熊之助

印刷所 谷口印刷所

東京・麹町・下六番町

厚生閣

電話九段三三二一八番  
振替東京五九六〇番

發行所

# 厚生閣版教育書選

(出版總目錄無代進呈)

## ☆教へ方全書

全書方	1 尋	一	の	修	身	東京成風 野瀬寛顯著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	2 尋	一	の	讀	方	東京女高 徳田進著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	3 尋	一	の	算	術(上卷)	奈良女高 池内房吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	4 尋	一	の	算	術(下卷)	奈良女高 池内房吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	5 尋	一	の	級	方	東京女高 富原義徳著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	6 尋	一	の	體	操	東京女高 寺谷朝藏著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	7 尋	一	の	唱	歌	東京女高 小出浩平著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	8 尋	一	の	圖	畫	東京女高 大竹拙三著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	9 尋	一	の	手	工	奈良女高 横井曹一著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	10 尋	一	の	學	級經營	東京女高 村田英吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	11 尋	二	の	修	身	東京成風 野瀬寛顯著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料

全書方	12 尋	二	の	讀	方	東京女高 徳田進著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	13 尋	二	の	算	術	東京成風 の村田英吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	14 尋	二	の	級	方	東京女高 富原義徳著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	15 尋	二	の	體	操	東京女高 斎藤薫雄著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	16 尋	二	の	唱	歌	東京女高 小出浩平著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	17 尋	二	の	圖	畫	東京女高 大竹拙三著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	18 尋	二	の	手	工	奈良女高 横井曹一著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	19 尋	二	の	學	級經營	東京女高 村田英吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	20 尋	三	の	修	身	奈良女高 小林巖著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	21 尋	三	の	讀	方	東京女高 佐藤末吉著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	22 尋	三	の	算	術	東京女高 山内俊次著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	23 尋	三	の	級	方	東京女高 田中豊太郎著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	24 尋	三	の	體	操	東京女高 斎藤薫雄著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料
全書方	25 尋	三	の	唱	歌	東京三河 坊田壽眞著	新四六判布裝 入	價〇・四五	送 〇六料





☆修身教育

生活訓練と道德教育	兒童の村 主 野村芳兵衛著	四六判洋布裝 入	價二・八〇	送 一四料
現代修身教育指針	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判	價二・三〇	送 一四料
惱みの修身	木村文助著	四六判布裝 入	價二・六〇	送 一四料
生活行の修身教育(學年別全六冊)	齋藤榮治著	菊 判 各二・八〇	各 二・八〇	送 一四料
勞働創造の修身教育	河野通賴著	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
生活内省と修身教育	河野通賴著	四六判洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
聖人格的生活と修身教授の諸相	河野通賴著	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
修身教育問答	東京高師 前編 川島次郎著	四六判布裝 入	價二・〇〇	送 一四料
共同體社會を 基調とする尋	兒童の村 主 野村芳兵衛著	菊 判 洋布裝 入	價三・四〇	送 一四料
修身一修身例話と指導法	野村芳兵衛 河野通賴 共著	四六判洋布裝 入	價二・〇〇	送 一四料
人格主義の倫理と修身	河野通賴著	四六判洋布裝 入	價二・〇〇	送 一四料
最近修身教育實踐の進歩	厚生閣編輯部編	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
修身・國 史・國語 辨證的教育の實踐	松本光亮著	菊 判 洋布裝 入	價二・九〇	送 一四料

☆國語教育

國語教育學	東京高師 前編 丸山林平著	菊 判 青革裝 入	價四・二〇	送 一四料
辨證法的國語學習	齋藤榮治著	四六判洋布裝 入	價二・三〇	送 一四料
國語科要旨の批判と解説	東京高師 前編 宮川榮芳著	四六判洋布裝 入	價一・八〇	送 一四料
國語教育診斷	武藤 要著	四六判洋布裝 入	價二・八〇	送 一四料
國語の本質とその教育	廣島高師 前編 佐藤徳市著	四六判布裝 入	價二・六〇	送 一四料
國語教材内觀の方法	齋藤榮治著	四六判洋布裝 入	價二・六〇	送 一四料
小學國語讀本の指導とその理論(等一前期用)	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 裝	價〇・六〇	送 一四料
小學國語讀本の指導とその理論(等一後期用)	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 裝	價〇・八〇	送 一四料
國語教育の修身的考察	河野通賴著	四六判布裝 入	價二・五〇	送 一四料
最近の文學・文章研究と國語教育	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
最近の心理學と國語教育の問題	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 洋布裝 入	價二・七〇	送 一四料
國語教育の科學的研究	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料
國語教育の方法學的研究	東京高師 前編 千葉春雄編	菊 判 洋布裝 入	價二・五〇	送 一四料



小學國語讀本朗讀法(卷一後期用)	東京文理 大教授 神保 格著 美菊 價〇・九〇 送 一〇
小學國語讀本朗讀法(卷二前期用)	東京文理 大教授 神保 格著 美菊 價一・一〇 送 一〇
小學國語讀本朗讀法(卷二後期用)	東京文理 大教授 神保 格著 美菊 價一・一〇 送 一〇
小學國語讀本朗讀法(卷三前期用)	東京文理 大教授 神保 格著 美菊 價一・一〇 送 一〇
小學國語讀本朗讀法(卷三後期用)	東京文理 大教授 神保 格著 美菊 價一・一〇 送 一〇
☆綴方教育	
綴り方指導系統案一覽表	東京高師 前副 千葉春雄著 美菊 價〇・一五 送 〇
調べた綴り方とその実践	上田庄三郎著 美菊 價二・二〇 送 一〇
教室用綴り方	富原義徳著 美菊 價二・九〇 送 一〇
村の綴り方	木村文助著 美菊 價二・三〇 送 一〇
土の綴り方	富原義徳著 美菊 價二・六〇 送 一〇
新文話と綴り方教育	佐々井秀緒著 美菊 價二・六〇 送 一〇
綴り方のおけいこ(全一六冊)	東京高師 前副 千葉春雄編 美菊 各〇・四〇 送 〇
綴り方教科の施設と經營	東京高師 前副 千葉春雄編 美菊 價一・九〇 送 一〇
最近の文學と綴り方教育	志垣 寛著 美菊 價一・八〇 送 一〇

形義原理に立つ綴方教育の實際	古見一夫著 美菊 價二・一〇 送 一〇
生活させる綴り方指導	東京高師 前副 千葉春雄著 美菊 價二・六〇 送 一〇
低学年の綴り方	金子好忠著 美菊 價二・〇〇 送 一〇
生活開發の綴方教育	川口半平著 美菊 價二・〇〇 送 一〇
綴り方心理學	西山庸平著 美菊 價二・八〇 送 一〇
綴り方教育問答	東京高師 前副 千葉春雄著 美菊 價二・〇〇 送 一〇
實用的綴り方教育	川村 章著 美菊 價二・八〇 送 一〇
手紙日記と綴り方教育	武藤 要著 美菊 價二・〇〇 送 一〇
綴り方設計圖	奥村利一著 美菊 價二・三〇 送 一〇
本義綴り方教育	藤原 信著 美菊 價二・三〇 送 一〇
科學的綴り方教育の設營	佐々井秀緒著 美菊 價二・〇〇 送 一〇
子供の郷土研究と綴り方	峯地光重著 美菊 價一・五〇 送 一〇
☆兒童詩教育	
批評と小學兒童の詩	百田宗治著 美菊 價一・九〇 送 一〇

こども	の詩教育	佐々井秀緒著	四六判布装	入	價二・三〇	送	一四料
生活への	児童詩教育	稲村謙一著	四六判美装	入	價二・〇〇	送	一四料
日本	児童新詩集	吉田瑞穂著	六判	入	價一・五〇	送	一四料
童謡鑑賞の	實際	河野伊三郎著	四六判布装	入	價一・八〇	送	一四料
詩の指導と	綴方教育	久保田宵二著	四六判美装	入	價二・〇〇	送	一四料
☆話方教育							
話し方指導の	理論と實際	山口信量共著	四六判洋布装	入	價一・八〇	送	一四料
話し方・聴き方の	實際研究	千葉春雄編	四六判布装	入	價一・八〇	送	一四料
お話あそびと	小さい劇	長尾 豊著	四六判美装	入	價一・六〇	送	一四料
童話と	其味ひ方解説	長尾 豊著	四六判美装	入	價二・一〇	送	一四料
劇と	お話教育問答	長尾 豊著	四六判布装	入	價二・〇〇	送	一四料
歌とお話の	戯曲化の仕方集	長尾 豊著	四六判美装	入	價一・八〇	送	一四料
國語讀本教材	お話集(第一集)	長尾 豊著	四六判美装	入	各一・八〇	送	一四料各
☆書方教育							

書方教育問答	東京高師前調導	水戸部寅松著	四六判布装	入	價二・〇〇	送	一四料
☆算術教育							
現代生活算術	モダンライフ・アリス・メソッド	三本重長譯著	四六判布装	入	價二・五〇	送	一四料
グラフ化の	算術教育	東京高師前調導 稲次静一著	四六判洋布装	入	價三・二〇	送	一四料
最近算術教育	實踐の進歩	厚生閣編輯部編	四六判洋布装	八	價二・五〇	送	一四料
算術教育問答	東京高師前調導 稲次静一著	四六判布装	入	價二・九〇	送	一四料	
實驗算術の	原理と實際	森 三郎著	四六判洋布装	入	價二・五〇	送	一四料
數學教育の	諸問題	村上 義著	四六判布装	入	價二・六〇	送	一四料
小學算術の	根本解義と指導(第一前用)	東京高師前調導 稲次静一著	四六判洋布装	入	價二・三〇	送	一四料
☆國史教育							
國史教育の	新思潮と實際經營	海老澤匡著	四六判洋布装	入	價三・二〇	送	一四料
國史教育の	革新	文學士前本一男編	四六判美装	入	價二・五〇	送	一四料
小學國史教材と	教授法(尋五用)	西龜正夫著	四六判布装	入	價一・九〇	送	一四料
國史教育問答	廣島高師前調導 大久保馨著	四六判布装	入	價二・〇〇	送	一四料	

最近 國史教育實踐の進歩 厚生閣編輯部編 菊判洋布裝 入 價二・五〇 送料  
 小學生定を  
 戲曲化する 兒童 劇 脚本 長尾 豊著 四六判美裝 入 價二・三〇 送料

☆地理教育

地理教育の新思潮と實際經營 海老澤匡著 菊判洋布裝 入 價三・四〇 送料  
 合 地理 新 教育 精 義 廣島高師 前編導 菊判洋布裝 入 價三・四〇 送料  
 郷土地理の調べ方と實例 西龜正夫著 四六判美裝 入 價一・八〇 送料  
 滿洲國中心支那地理 西龜正夫著 菊判布裝 入 價三・四〇 送料  
 改訂小學地理教材と教授法(第五用) 西龜正夫著 菊判布布裝 入 價一・九〇 送料  
 改訂小學地理教材と教授法(第六用) 西龜正夫著 菊判布布裝 入 價二・〇〇 送料  
 改訂小學地理教材と教授法(第七用) 西龜正夫著 菊判布布裝 入 價一・八〇 送料  
 改訂小學地理教材と教授法(第八用) 西龜正夫著 菊判布布裝 入 價一・六〇 送料  
 最近 地理教育實踐の進歩 厚生閣編輯部編 菊判洋布裝 入 價二・五〇 送料  
 小學生定を  
 戲曲化する 兒童 劇 脚本 長尾 豊著 四六判美裝 入 價二・八〇 送料  
 東京女高 師編導 齋藤英夫著 四六判布裝 入 價二・〇〇 送料

☆理科教育

小學校理科實驗指導細説 氏家勇記著 菊判洋布裝 入 價二・八〇 送料  
 理科 教育 問 答 東京高師 編導 堂東 傳著 四六判洋布裝 入 價二・〇〇 送料  
 小學生定を  
 戲曲化する 兒童 劇 脚本 長尾 豊著 四六判美裝 入 價二・五〇 送料  
 最近 理科教育實踐の進歩 厚生閣編輯部編 菊判洋布裝 入 價二・五〇 送料

☆音楽教育

新音楽教育の研究 北村久雄著 菊判洋布裝 入 價四・八〇 送料  
 高學年音楽生活の指導 北村久雄著 菊判洋布裝 入 價三・二〇 送料  
 正しい音楽生活の指導(特に中學年の研究) 北村久雄著 菊判洋布裝 入 價三・〇〇 送料  
 國語として觀たる音楽 東京高師 前編導 青柳善吾著 四六判布 裝 入 價一・四〇 送料  
 やさしい獨唱と輪唱曲集 坊田かずま著 菊判 裝 入 價二・二〇 送料  
 音楽教育の實際問題 東京高師 前編導 青柳善吾著 四六判布 裝 入 價二・〇〇 送料  
 心理化 唱 歌 綜 合 教育 坊田壽眞著 菊判布 裝 入 價一・八〇 送料  
 動作の ついた やさしい唱歌(正續) 厚生閣編輯部編 菊判 裝 入 價各一・〇〇 送料

唱歌あそびと小さい唱歌劇 草川信曲著 菊 判 價一・〇〇 送一四料  
 唱歌教育問答 東京高師 前調導 青柳善吾著 菊 判 價二・〇〇 送一四料

☆舞踊教育

本體育舞踊の理論と實際 體育會 體操編 赤間雅彦著 菊 判 價一・五〇 送一四料  
 幼稚園の舞踊 石井小浪著 菊 判 價〇・八〇 送一四料  
 尋一の舞踊 石井小浪著 菊 判 價〇・八〇 送一四料  
 尋二の舞踊 石井小浪著 菊 判 價〇・八〇 送一四料  
 幼稚園のおゆづき 長尾豊著 菊 判 價一・〇〇 送一四料

☆手工教育

手工指導書(全六冊) 霜田靜志 共著 菊 判 價一・一〇 送一四料  
 小學校手工用器畫法 武田忠雄著 菊 判 價一・五〇 送一四料  
 手工教育問答 和歌山 師範教員 富山康親著 菊 判 價二・九〇 送一四料  
 東京高師 師範教員 山形寛著 菊 判 價二・〇〇 送一四料

☆圖畫教育

圖畫の教育 關衛著 菊 判 價二・五〇 送一四料  
 圖案の學習 關衛著 菊 判 價二・三〇 送一四料  
 幼稚園や低学年の生活圖畫指導 三森連象著 菊 判 價二・六〇 送一四料  
 圖畫指導の生かし方と要領(全一六冊) 日本美育會編 菊 判 各〇・六〇 送一四料  
 圖畫教育問答 廣島高師 調導 大竹拙三著 菊 判 價二・〇〇 送一四料

☆體育遊戲

體育新心理學 東京高師 前調導 齋藤薰雄著 菊 判 價二・三〇 送一四料  
 兒童陸上競技の指導と實際 東京高師 調導 齋藤薰雄 共著 菊 判 價二・八〇 送一四料  
 小學校遊戲競技全教材とその指導 東京高師 調導 齋藤薰雄著 菊 判 價一・五〇 送一四料  
 學藝會運動會の新研究 北村久雄著 菊 判 價二・八〇 送一四料  
 體操教育問答 東京高師 調導 齋藤薰雄著 菊 判 價二・〇〇 送一四料  
 最近 學校體操實踐の進歩 厚生閣編輯部編 菊 判 價二・五〇 送一四料

☆家事教育

家事の實際知識 秋間保郎著 菊判背布裝 入 價二・九〇 送料一八

☆作法教育

現代國民作法實演 大日本作 法書及會 山口和喜著 菊判 價一・五〇 送料一四

☆裁縫教育

裁縫指導細目 (尋四用・尋五用) 齊田コト著 菊判(尋四)〇・八〇(尋五)一・〇〇

裁縫指導細目 (高一用) 齊田コト著 菊判 各一・〇〇 送料一〇

洋裁洋装事典 婦人畫報 前編如長 今田謹吾著 三六判洋布裝 入 價一・五〇 送料〇八

裁縫手藝に關する色彩指導法 本間良助著 菊判布裝 入 價三・〇〇 送料一四

裁縫教育問答 東京女高 前編如長 田原美榮著 四六判布裝 入 價二・〇〇 送料一四

☆手藝教育

手藝指導細目 (尋常科用) 齊田コト著 菊判 高等〇・九〇(尋常)〇・八〇 送料各一〇

創作的な手藝學習の指導 齊田コト著 四六判美裝 入 價二・〇〇 送料一四

現代手藝教育最新資料と指導の實際 齊田コト著 四六判美裝 入 價二・〇〇 送料一四



347

639

2